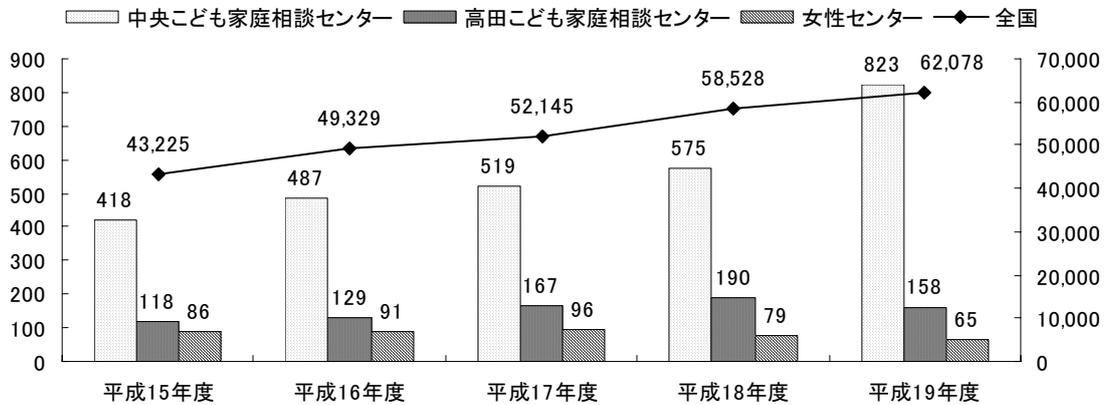


I 奈良県におけるDVの現状

県の女性相談窓口（中央・高田子ども家庭相談センター、女性センター）に寄せられたDV相談件数は、平成19年度1,046件（前年比202件増23.9%増）であり、年々増加している。

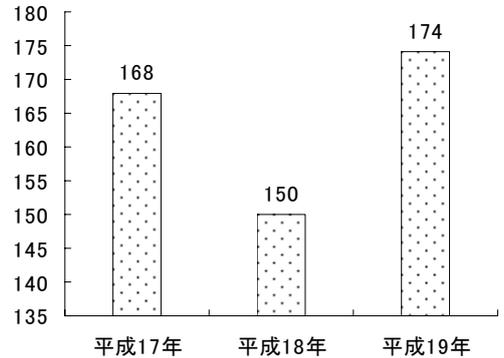
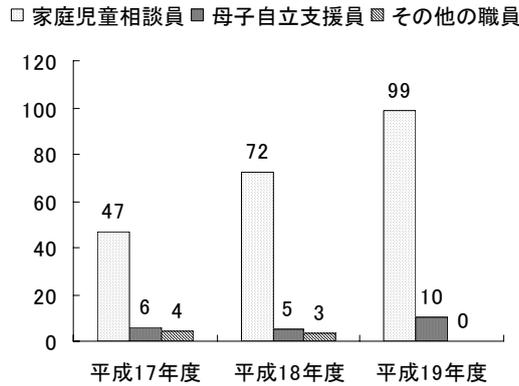
1 相談件数の推移

（中央・高田子ども家庭相談センター、女性センター、全国の相談件数の推移）



福祉事務所、市町村における相談件数の推移
（県子ども家庭課、男女共同参画課調べ）

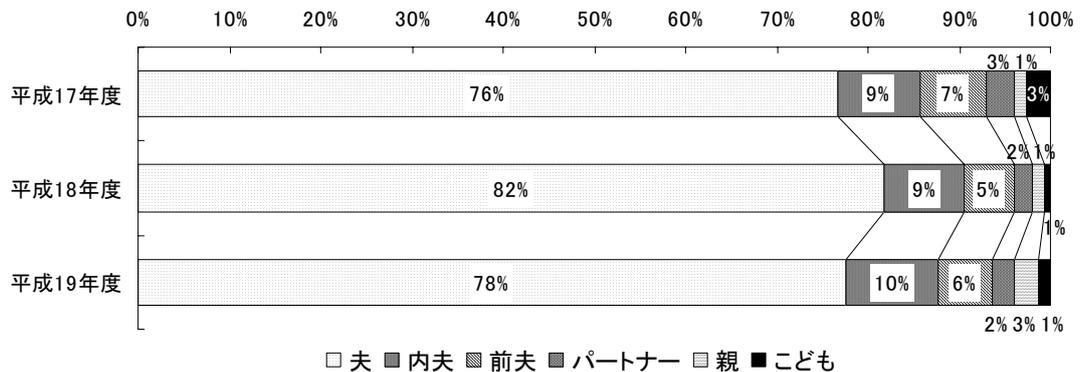
警察における相談受理件数の推移
（奈良県警調べ）



2 暴力原因相談の加害者内訳

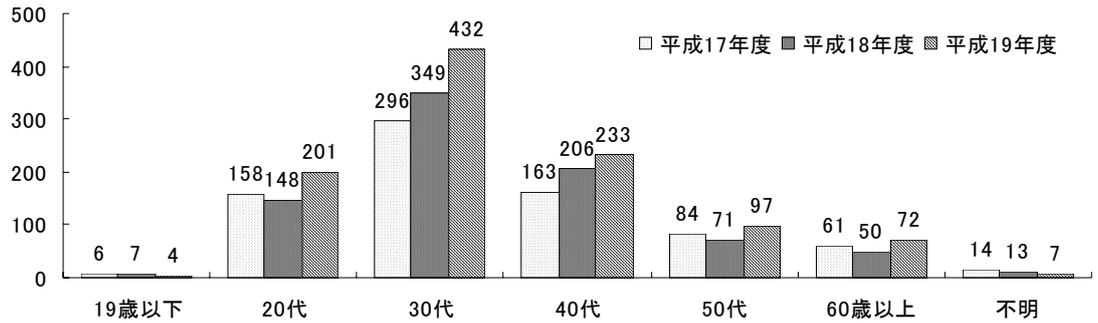
（中央・高田子ども家庭相談センター、女性センター）

夫からの暴力は、全体の70%以上を占めている。内夫、前夫を含めると90%を超える。



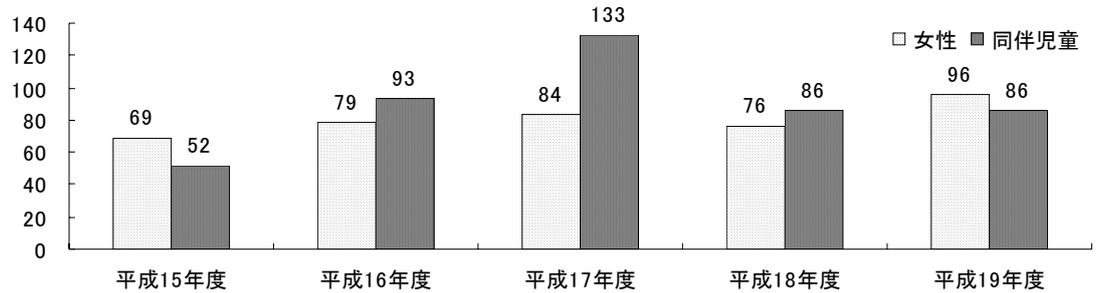
被害者の年齢は、30代が最も多く(平成19年度432件、全体の41.3%)、20代女性の相談件数も顕著な増加(対前年比35%増)となっている。

3 被害者の年齢



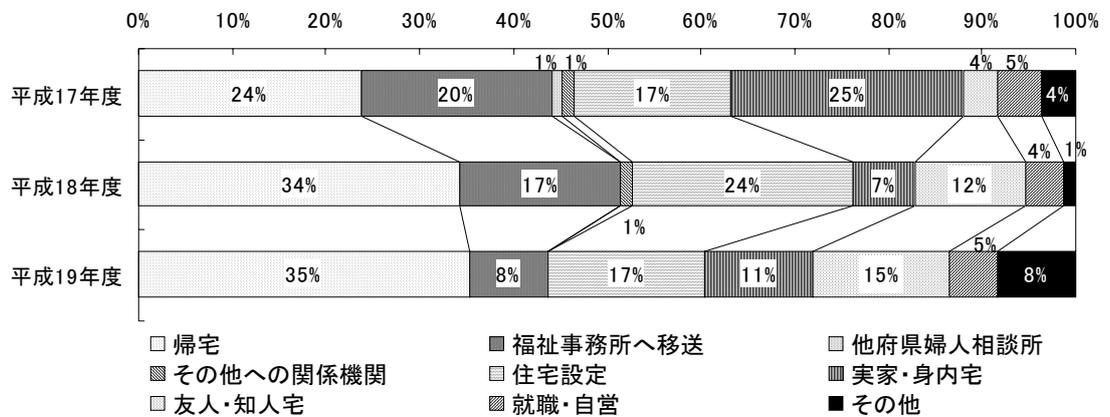
平成19年度、一時保護件数は96件(前年比20件増26.3%増)で、86名の児童が母子同伴である。

4 暴力による一時保護者の推移



一時保護後の退所先の状況を見ると、35%が「帰宅」している。ついで住宅設定、友人・知人宅となっている。

5 暴力原因による一時保護者の退所後の状況



被害者が身の安全を確保する必要がある場合に、地方裁判所において保護命令が発令されている。平成19年度は、58件の書面提出のうち、保護命令発令は53件である。

6 保護命令の状況

